

地域に寄り添う医療の息吹 ～ 医療法人そよかぜでの地域研修を終えて～

神戸大学医学部附属病院 初期研修医 小坂俊太

特急列車の車窓——

流れ行く町並み、名も知らぬ土地で暮らす人々の営み。降り立つのない町で、それぞれの人生を送っている人たちがいる。私は特急列車に乗るたびに、そんな景色に想いを馳せておりました。

さて、大阪府高槻市在住の私は、今回地域研修ということで、もしかすると通り過ぎていた町のひとつだったかもしれない、兵庫県朝来市の山東町に構えるそよかぜ診療所にお伺いする機会をいただきました。

正直に言ってしまうと、この研修が始まるまでは「地域医療」や「訪問診療」にそんなに興味があったわけではありませんでした。知らないからピンときていなかった、という方が正確かもしれません。

そんな私がこの一ヶ月間で、まだ一年程の短い医師人生を覆し、これから幾十年に及ぶ医師人生に大きな影響を与えるであろう経験をさせていただきました。

私が最初に驚いたのは、医療法人そよかぜのプライマリ・ケアのレベルの高さです。

先生方みなさまが、これまで様々な病院で十分なキャリアと経験を培ってこられた実力者であることはもちろん、なにより地域住民の人々に適切な医療を提供することに全員が情熱を燃やしておられる姿に感銘を受けました。

そんな生活を送っているうちに私にも変化がありました。

診療所に訪れる患者さんたちと毎日顔を合わせていると、「おはようございます」「こんにちは」「お大事に」そんな当たり前の挨拶に、心が通っている感覚をおぼえるようになりました。

また、最初は何も分からず訪問診療に付いて行っていました。段々と患者さんたちのお顔を見るのが楽しみになってきました。ご体調にお変わりはないかな？ご飯はしっかり食べられているかな？暑くなってきたけれど水分はこまめに摂っているかな？など、生活の様子が気になって仕方ありません。

そして気づいたら、この土地、そしてここに住む人々が大好きな自分がいました。

一ヶ月間こ朝来市の人々と共に生活を送った経験は、一生の宝となるでしょう。

いつの日か一人前の医師になり、かつては通り過ぎた車窓の駅でふと降りて、先生方・診療所の方々・そして地域の人々にご挨拶に来る——そんな私のささやかな夢を胸に秘め、私は医師としての道を邁進していく所存です。

<了>

P.S.

お土産は多治米合名会社さんの「竹泉」で決まりッ！

診療所の近くに酒蔵がありまして、毎週木曜早上がりの日は営業時間内に間に合うよう自転車を爆速で漕いで通ってました！！←試飲させていただくので帰りは押して帰ります(笑)

はるかぜ診療所のお隣のBarGinのドリンクも美味しすぎてお土産に3本買って帰りました！オススメ！